

鹿屋市スポーツ推進計画を策定しました!!

- 生涯にわたってスポーツを元気に楽しめるまち
 - スポーツに挑戦する楽しみがあるまち
 - スポーツを通じて、鹿屋の魅力・活力・交流を楽しめるまち
- を基本目標として、取り組めます。



鹿屋市スポーツ推進計画とは

《背景・目的》

スポーツ基本法第10条により、国のスポーツ基本計画を参酌するとともに、鹿児島県のマイライフ・マイスポーツ運動、鹿屋市教育大綱並びに本市の実情を踏まえ、平成21年12月に策定した「鹿屋市スポーツ振興計画」の改定版として、スポーツの推進に関する計画（「鹿屋市スポーツ推進計画」）を本年3月に策定しました。

《計画のポイント》

この計画は、これまで、競技を中心に取り組まれてきた施策に加え、健康づくりや障害者のスポーツ施策を盛り込みました。特に、急速な高齢化が進む中、子どもから高齢者まで、全ての市民が生涯にわたって健やかで心豊かに生活していくには、市民一人ひとりが若い頃から「バランスのとれた食事」「適度な運動や睡眠」「定期的な健康診断の受診」など、健康・体力づくりに取り組むことが重要です。しかし、毎日の食事に気をつけ、毎年、健康診断を受診し、自らの健康をチェックしていても、ついつい運動の機会を逃している方も多いと考えられます。

このようなことを踏まえ、本市のスポーツ実施の状況は、全国・県平均よりも低く、特に1週間に1回以上、30分以上運動をしない方が多い現状であることから、今後、スポーツ実施率を高めるために、

“みんなで1130運動”^{いちいちさんまる}を行動目標として取り組みます。

《施策体系》

スポーツ環境づくりの推進

- ・スポーツに楽しむ機会の充実
- ・施設の再配置、整備充実
- ・スポーツ観戦
- ・顕彰
- ・スポーツ情報の提供
- ・人材の育成 等

生涯スポーツの推進

- ・コミュニティスポーツの推進
- ・地域のイベントとなるスポーツイベントの開催 等（クロスカントリー、マリンスポーツ 等）

運動による健康づくりの推進

- ・スポーツに楽しむ機会の充実
- ・子どものスポーツ推進と体力向上
- ・運動による健康づくりの推進 等

競技スポーツの推進

- ・ジュニアの育成強化
- ・指導力向上 等

スポーツ交流の推進

- ・ホームタウンスポーツの推進
- ・スポーツ合宿誘致 等

【計画期間】

総合計画後期基本計画

鹿屋市スポーツ推進計画

H28

H29

H33

スポーツ推進計画の重点施策

- 総合型スポーツクラブの育成強化
- 高齢者等の健康づくりの推進
- スポーツ交流の促進
- 児童生徒の競技力向上
- スポーツ環境の提供

平成28年度新規事業

- 地域運動サークル促進事業
 - ・体力運動能力調査
 - ・結果報告会(貯筋運動等の普及)
 - ・地域単位での運動サークル形成
- 国体に向けた競技力向上対策事業
 - ・鹿屋体育大学 SP 棟を活用した体力測定会の実施
 - ・ジュニア育成強化対策(クラブ型・スクール型)

計画的に事業推進

《目標値》

成人の週1回以上のスポーツ実施率 **70%**
成人の週3回以上のスポーツ実施率 **35%**
1年間のスポーツ未実施率 **10%**
総合型クラブ認知度 **100%**

※この計画に基づき、スポーツ環境づくり・生涯スポーツの推進・運動による健康づくりの推進・競技スポーツの推進・スポーツ交流の推進を基本戦略として、スポーツによるまちづくりを進めます。

鹿屋市テニス協会



ここ鹿屋市には鹿屋体育大学があり、優秀な指導者や選手が在籍し、県内のどこよりもトップアスリートを育成できる環境が整っています。

昨年6月に小・中学生を中心とした『2020年鹿児島国体に向けたジュニアテニスクラブ』を立ち上げ、現在約60名が所属しています。

活動は、有望な選手を育成する『トップアスリート育成クラス』と新たな人材発掘を目的とした『初級者教室』があり、トップアスリート育成クラスは、鹿屋体育大学の高橋先生をはじめテニス部の指導のもと月2回、2時間の強化練習を行っています。

また、初級者教室は、県民健康プラザで、当協会の指導のもと、毎週日曜日、9時～11時をメインに楽しく活動しています。

このクラブでは、「上が下を育てる」の考え方のもと、大学生が県大会で活躍するジュニアを育て、そのジュニアが初心者の子たちを育てることを実践しています。ここ鹿屋市からオリンピックや国体の選手を目指すにあたって、競技力向上はもとより、まずは地元愛を持ち、地域から応援される選手が育つことが大切です。

この活動を通し、一人でも多くのトップアスリートが輩出されれば嬉しく思います。選手、指導者一丸となつてがんばります!!!



「努力」

すやま ひなた
須山 向陽 (田崎小学校6年)

努力は人を裏切らない! 2020年はオリンピックと鹿児島国体が開催されます。4年後に迫った大きな大会で夢の大舞台に立てるよう、小さなことから努力を積み重ねてがんばります!! 応援よろしくをお願いします!

問合せ先

鹿屋市テニス協会 担当: 須山
(鹿屋市体育協会内)
電話: 0994-43-0719

Pick up イベント

鹿屋市で開催されるスポーツイベントを、厳選して紹介します。

2016V・サマーリーグ女子西部大会



V・サマーリーグとは、日本バレーボールリーグ機構(Vリーグ)に加盟するプレミアリーグ、チャレンジリーグI・IIが夏場強化を目的に行う大会です。1次リーグは東部と西部に分かれて戦い、西部は鹿屋市串良アリーナにて、7月1日から3日まで11チームが参加して開催される予定です。観戦方法など詳しくは、後日案内します。

今回は、鹿屋市とともに大会誘致にご協力いただいた鹿屋体育大学バレーボール部の濱田幸二監督に大会の見どころなどお話を伺いました。

●誘致に取り組んだきっかけは?

かごしま国体に向けて、まずは子どもたちに夢を与えたいと思ったことがきっかけです。日本国内のトッププレイヤーのプレーや態度、なぜ一流であるのかなど、子どもたちには色々なことを観察して様々なことを吸収して欲しいと思います。

●大会の見どころは?

今年チャレンジリーグからプレミアリーグに昇格したJTマーベラスなど、プレミアリーグに所属する4チームをはじめ錚々たる

チームが鹿屋に集結します。

鹿屋体育大学出身の選手も多数出場しますが、今年プレミアリーグで優勝した久光製薬スプリングスでセッターを務めた中大路 絢野選手は注目して欲しい選手の一人です。

●鹿屋市の競技者に向けて

大会では、選手の技術力などはもちろんウォーミングアップや練習方法、各チームの監督やスタッフがタイムアウトを取るタイミングなど様々なことを見学して欲しいと

思います。競技会場に足を運んで初めて分かることが必ずあると思います。



▲平成25年7月7日 2013V・サマーリーグ

鹿屋高等学校 陸上競技部

平成27年9月17日から19日に開催された「第59回鹿児島県高等学校新人陸上競技大会」において、男子総合6位入賞、男子トラック3位入賞、女子トラック7位入賞を果たした鹿屋高等学校陸上競技部。

進学校のためなかなか練習時間をとることができない中、多くの選手が個人においても多数入賞し、県下一周駅伝、県地区対抗女子駅伝での出走、インターハイへの出場も果たしています。

最後の総体に向け、今後の活躍が期待されます。

【Key Word】…総合入賞とは？

各種目で選手が1～6位に入賞すると、6～1ポイントが学校ごとに加点されます。

合計ポイントによって学校ごとの順位が決まります。



チームスローガンは「チームで勝つ」

部活のみならず、勉強や日々の生活においても、部員全員ですべてに勝ちにいくという思いが込められています。

個人競技である陸上ですが、チームを組んで取り組む意義と、勝ちにこだわる若いエネルギーを感じることができます。

Interview



うえき たいせい
上木 太晟主将 (鹿屋東中学校卒業)

2年生17人、1年生12人(内マネージャー4人)の29人のチームを引っ張る上木主将。2月の県下一周駅伝では、肝属代表として、3日目、7区に出走しました。

◆陸上を始めたきっかけは？

中学までは野球部で、正直活躍のチャンスがないくらいへたくそだったのですが、中学3年の時に駅伝大会に出場し、感動したことがきっかけです。

陸上では、野球で鍛えた足腰を武器に、自分の力で戦え、そして個々の成績がダイレクトにチームの成績につながることを楽

しく、今では陸上のとりこになっています。

◆主将として心がけていることは？

短距離種目では、時にコンマ1秒で上位大会への切符を得られるかが懸かってきます。そのため、運も味方にできるよう、普段から小さな徳を積むことで、本番での自信につなげるようにしています。

また、チーム団結、お互いを尊重しあう絆があって強豪校と互角に対戦できると考えています。自主性を尊重しつつ、チーム力を高め、部員が最大限能力を発揮できるように環境づくりを心がけています。

■新チームの目標は？

5月に行われる最後の総体でも、団体で上位入賞を目指します。そのために部員それぞれが自己ベストを更新できるよう、大会まで残りわずかですが、本校伝統の三星魂を胸に、チームの勢いをさらに加速させていきます。

たしろ はるき **田代 春樹監督**

赤木名中学校(奄美市)、鹿児島南高校、筑波大学卒業。中学、高校と走高跳で全国大会出場。平成26年から鹿屋高校に赴任。

■指導者として心がけていることは？

まず家族に感謝、次に学校生活を充実させること、その先に部活動があることを強調しています。生徒会、各種委員長の部員も多く、今後もこの雰囲気大切にしていきたいです。

■これまでの成績については？

進学校という環境の中、毎年のように九州大会や全国大会へ出場している伝統があります。平成27年度も全国大会に出場する選手が出るなど、厳しい環境でも結果を伴う集中した練習の積み重ねが実っていると思います。

■現在の練習内容は？

週に2回は学校から3.5km離れた陸上競技場で専門種目ごとの練習を行い、その他は学校で基礎トレーニング等を行っています。メニューの中には、部伝統のリズムダンスなどがあります。

■今後の目標は？

部員一人ひとりが日々の自分に挑戦する気持ちを持ち、部員が互いに支えあい、九州、全国で戦える選手を輩出していくことです。5月にある県総体では、各種目上位入賞、上位大会での活躍を目標にチーム全員で頑張ります。